

ももたろう基金【第4次助成】 事業実施報告書

実施事業	西日本豪雨災害「大切なもの」無償応急処置
実施者名	西日本豪雨災害「大切なもの」無償応急処置できることをできるだけチーム
助成金額	750,000 円
受益者数	直接受益者 100 名 (間接受益者 760 名)

※イベント実施や複数回実施事業は別紙で各回の人数等、対象者数のわかる資料を添付ください。

実施した事業の内容・成果

<実施内容>

**1、被災した「大切なもの」応急処置方法の検証と処置の実施**

平成 30 年 7 月の西日本豪雨災害で被災した「大切なもの」を、計 34 家族からお預かりし、第 3 次ももたろう基金実施期間後も継続して応急処置作業を行いました。

実施場所は、無償で以下の場所をお借りすることができ、龍昌院ではメンバー 8 名だけで行っていた作業を各美術館、大学ボランティアさんと行いました。

- 平成 30 年 8 月 3 日～9 月 28 日まで：龍昌院（倉敷市西岡 1774）
- 平成 30 年 9 月 29 日～10 月 17 日まで/毎日：岡山県立美術館研修室
- 平成 30 年 10 月 18 日～平成 30 年 11 月 30 日まで/週 2 回：ノートルダム清心女子大学
- 平成 31 年 2 月 1 日～現在（令和 1 年 5 月 15 日）に至る：岡山県天神山文化プラザ

▶岡山県立美術館では、被災写真の応急処置（被災アルバムの解体、写真の真空乾燥、インク定着処置、洗浄）のみを集中的に行いました。岡山県立美術館所属ボランティアさん約 80 名に参加いただきました。

▶ノートルダム清心女子大学では大学生ボランティアさんに毎回 10～13 名参加いただき、子供さんの作品（絵画、書、作文、工作）、日記帳（45 冊）の応急処置（固まった作品の解体、洗浄、殺菌）を行いました。

▶岡山県天神山文化プラザにおいては、一般募集したボランティアさん（登録者 55 人/毎回 7～11 人）と写真の仕上げ作業とデジタル化、子供さん作品の仕上げや仕立て直しを行いました。

**2、災害時における「大切なもの」救出・応急処置の啓発活動**

被災した「大切なもの」をまずは捨てないことと、残すための応急処置方法を知っていただくために以下の活動を行いました。

① 1A1A プロジェクト×ノートルダム清心女子大学

平成 30 年月日、社会学部 藤實教授の授業にて、被災写真、被災した「大切なもの」の現状を学生 36 名に知っていただくことと、被災ボランティア参加を目的として、メンバー岡村を中心として被災者様に贈るアルバムを制作していただきました。時間内にあわせてメンバー石原が、被災写真のデジタル化についてスライドを用いてレクチャーしました。

②活動報告展「一枚のはがき」：KS ギャラリー・岡山県天神山文化プラザ

災害の少ない岡山で発生した西日本豪雨災害の現状を、被災者様の「大切なもの」を通して知っていただくためと、当活動の活動内容・方法を知っていただくために、平成 30 年 12 月 8 日～16 日 KS ギャラリー（岡山市表町）、平成 30 年 3 月 26 日～31 日岡山県天神山文化プラザにて活動報告展を行いました。

▶KS ギャラリー：来場者 134 名/芳名帳記帳者数

▶岡山県天神山文化プラザ：来場者 333 名

## <成果>

### 応急処置について

お預かりした被災物「大切なもの」の応急処置（解体、洗浄、殺菌）を8割程度まで終了することができました。

#### ■水濡れ写真

水濡れした写真に起こっている現象（劣化原因解明も含む）を分析し、それに基づいた作業手順を確立し、ボランティアスタッフによるばらつきが無い作業行いました。処置写真約2400枚。ここで得た写真劣化の分析結果・写真洗浄手順は、Facebookで公開し誰でも再現可能なものとなりました。

#### ■カビの発生した紙類【子供さんの作品集（絵画・書道・作文）、日記帳、母子手帳など】

解体⇒洗浄⇒殺菌⇒乾燥⇒再装丁の流れのうち、洗浄、殺菌、乾燥をノートルダム清心女子大学ボランティアさんと行いました。仕上げ作業は岡山県天神山文化プラザにて行い、平成31年3月時点では8割の作業を終了。

#### ■軸や油絵など

メンバーで洗浄殺菌後、軸は裏打ち（紙の補強処置）、油絵は絵具の剥落の補強処置を行い、作業を終了しました。

### 災害時における「大切なもの」救出・応急処置の啓発活動について

KSギャラリー・岡山県天神山文化プラザにて活動報告展を行い、多くの来場者様に興味を持っていただくことができた。併せて、1A1A（1アルバム1アーティスト）プロジェクトの一環として「思い出を綴ろう」をテーマに、メンバー魚井による製本技法を用いてメモ帳づくり、メンバー大西による裏打ち（表装の技法）を用いて折本づくりワークショップを行った。各回20名定員、満員御礼！楽しみながら、ものを治す技術の一端を体験していただけたようです。

「被災写真デジタル化の方法と意義」としてメンバー蔵知、石原による講座も会期初日ということもあり多数のメディア取材の中行いました。

### 活動の様子（写真などを添付してください）



子供さん作品洗浄の様子（龍昌院）



被災写真応急処置の様子（龍昌院）



被災写真応急処置の様子（岡山県立美術館）



被災写真応急処置の様子（岡山県立美術館）



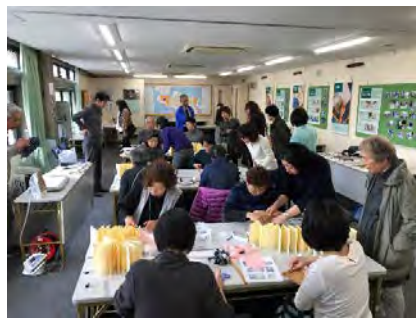
子供さん作品洗浄の様子（ノートルダム清心女子大学）



第1回1A1Aプロジェクトの様子（ノートルダム清心女子大学）



製本ワ クショップの様子（岡山県天神山文化プラザ）



折帖ワ クショップの様子（岡山県天神山文化プラザ）



写真デジタル化講座の様子（岡山県天神山文化プラザ）



折帖ワ クショップの様子（岡山県天神山文化プラザ）



応急処置 被災写真デジタル化の様子（岡山県天神山文化プラザ）



応急処置作業の様子（岡山県天神山文化プラザ）

# 決算報告 (※原則として領収書の写しを添付いただきます。)

今回実施した事業の決算内容は下記の通りです。

		費目	金額 (円)
収入の部		ももたろう基金助成金	750 000
		自己資金	8 704
収入合計			758 704

		費目	算出根拠	金額 (円)
支出の部	①当プログラム助成金 対象費目 当プログラム助成金 (このプログラムで集めた寄付金) を充てる費目	事務用消耗品		6 902
		写真洗浄・アルバム関連	写真洗浄用および乾燥用の消耗品・器具、アルバム仕上げ用品	398 481
		乾燥作業関連	除湿剤など	9 663
		消耗品 食品 飲料含む)	和紙・アルコール・布テープ・ナイロン袋など	102 900
		作品整理関連	ファイルなど	27 572
		分析費	岡山県工業技術センター (2回分)	7 310
		展示会関連	12月/4月開催	139 405
		紙洗浄 製本作業関連	スポンジ・トレー・糸など	64 239
		交通費・通信費		2 232
	②その他費目	小計	758 704	
	当プログラム助成金 (このプログラムで集めた寄付金) を充てない費目			
		小計	0	
支出合計			758 704	

## 寄付者へのメッセージ

被災者様が日常に大切にされてこられたものの応急処置は、写真・子供さんの絵画や作文・書をはじめ、母子手帳・日記帳・御朱印帳・遺影・賞状など多種類のものを扱う活動となりました。それゆえに作業工程も多く、考えていた以上に期間を有することになりました。しかし、私どもの被災者様の「大切なもの」を残す気持ちと活動に、これまた思っていた以上に多くの方がご協力くださり、発災1年をめでにようやく被災者様のお手元にお返しすることができそうです。

そして、「思い出のもの、大切なものを災害を超えて残す」方法を多くの方と試行錯誤しながら、共有しながら作業することにより、作業員である私たちも学ぶことの多い活動となりました。被災者様の「大切なもの」はこれからも、ご寄付いただいた皆様の優しいお気持ちと共にずっと残っていくと信じております。

## 今後の活動

以下の残作業を終了させたのち、活動の場を倉敷市真備町に移します。被災当事者の方とともに、引き続き修復作業をおこなっていきます。

■被災写真：仕上げ (写真表裏の拭き作業)、デジタルデータ化

■子供さんの作品：洗浄作業若 の残り (洗浄不足等)

日記、ノート等、冊子類の再装丁

■御朱印帳等の仕上げ作業